

令和5年度 HIYOSYLLABUS

授業概要 2年次生用



目 次

■ HIYO シラバス	3
■ 教育課程	3
■ 教育目標	4
■ 評価について.....	5
◇ 国語科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	9
◇ 地理歴史公民科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	14
◇ 数学科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	24
◇ 理科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	30
◇ 保健体育科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	38
◇ 芸術科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	41
◇ 英語科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	47

■ Hiyo シラバス

「シラバス」とは、カリキュラムを構成する各教科・科目などについて、目標、内容、教材、学習指導計画、評価の概要などを記載した計画書のことをいいます。1年間の授業を通じ、日吉ヶ丘高等学校でみなさんに理解してほしい事柄、身につけてほしい見方、考え方などが到達目標として具体的に示されています。

全員が「グローバルコミュニケーションコース」に所属しますので、1年次は全員同じ科目を履修します。2年次からはそれぞれの希望に基づいて文理別の専攻を選択し、「世界をつなぐ越境者」としての進路実現を目指します。

教育課程

1年次																	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	PSα	家庭基礎	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	H	R	PSα : Presentation Skillsα																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
2年次																	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	人文社会科学専攻 (Humanities)	自然科学専攻 (Science)	論理国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	数学B	物理基礎／ 地学基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	文学国語	世界史探究	地理探究	PSⅡ／ PSⅢ	総合的な探究の時間	H	R	自由履修科目		ASⅠ : Academic Skills B3～34 : 文系は自由履修 理系は必履修																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
																					英会話α／ 英演α／ 数演X	文学／ 国語基礎	数学B	PSβ : Presentation Skillsβ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
3年次																	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	人文社会科学専攻 1 (Humanities 1)	人文社会科学専攻 2 (Humanities 2)	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	文学国語	政治・経済／倫理	世界史探究	地理探究／ 日本史探究	国語演習α	数学Ⅲ／ 数学C	英語演習β	数学演習γ(4単位)	数学演習β	PSⅡ／ PSⅢ	ASⅡ	生物基礎演習／ 化学基礎演習／ 生物基礎演習	化学	生物基礎演習／ 地学基礎演習／ 物理基礎演習	リベラルアーツ編制／ フットボール／ 芸術演習(音楽工書／ フィトデザイン／ 英語演習β／ 英語演習β／ 第2外国語／英会話β／ ICT実習)	ICT実習／ 英演β／ 数演Y(23～24と必修)	ICT実習／ 英演β／ 数演Y	ICT実習／ 英演β／ 数演Y	地理探究(4)(15～16と必修)	H	R	自由履修科目 ※必履		32 33																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
																													英語コミュニケーションⅢ	英語演習β	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演Y	数演

- * 同じ枠の中に複数の科目がある場合は、その中から1科目を選択し履修します。
- * I・IIの表記のある場合は、Iの科目を履修した後でIIの科目を履修します。
- * α・β・γ・X・Yの表記のある科目は、履修する順序に制限はありません。

■ 教育目標

自 律

自己理解を深め、自らの言動に責任を持ち、変化の激しい社会を柔軟かつ主体的に生き抜く力を培う。

協 働

多様な価値観や人権を尊重し、他者との対話を通して社会に貢献していく力を養う。

創 造

幅広い知識や教養、論理的思考力を基盤に、探究の意欲を持ち続け、新たな価値を創出する力を育む。

上記の教育目標をもとに、日吉ヶ丘高校は以下のような「育てたい生徒像」を目標に教育活動を行います。

世界をつなぐ越境者

～Beyond the hill today, Beyond yourself tomorrow～

日吉ヶ丘高校の生徒のみなさんの目標にしてほしい「世界をつなぐ越境者」とは、「自分の壁やまわりのさまざまな境を越えて挑戦し、いろいろな人々とつながり、自分の世界を広げ、新しい価値を求める」人物のことです。「世界をつなぐ越境者」に近づくため、日吉ヶ丘高校では7つの力をHIYOSevenとして設定し、すべての教育活動でその力を意識した活動を行います。

■ HIYOSeven

俯瞰力

広い視野で物事を見たり、客観的に物事の全体像を捉えたりする力

適応力

相手を尊重し思いやり、置かれた状況の中で柔軟に対応したりする力

受信力

情報を正確に受け止め、相手の真意や感情、書かれたものの内容を正確に理解する力

発信力

相手に「伝わる」ように自分の考えや情報を書いたり、話したり、表現したりする力

思考力

物事を論理的に、批判的に、創造的に考える力

挑戦力

失敗や困難を恐れず、主体的に粘り強く物事に取り組む力

〇〇力

3年間の高校生活を通して、自分の強みとなるような個々でつきたい力



じふはここ

受(俯)発(個)

しちて

思(挑)適

自負はここ七手！

■評価

本校では上記の目標の下、全科目おおむね以下の観点で評価します。

評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得。 ・習得した知識や技能を既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしている。 ・習得した知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を用いて「世界をつなぐ越境者」の意識を持ち、主体的によりよい社会を実現するために挑戦し、発信しようとしている。

■ 科目選択について

単位制である日吉ヶ丘高校では、様々な選択科目の中から、自分の興味・関心や進路希望にそってよりよい科目選択をすることができます。

以下の説明をよく読んで、有意義な選択をしてください。

最初に

様々な選択科目の中から科目を選択していくのは、**自分**です。しっかりと自らの将来を考え、主体的に選択をしてください。「科目が多くてよく分からないから適当に選んでおこう」とか「内容は分からないけれど先生に勧められるまま選んだ」というようなことでは、いざ大学受験を目の前にしたときに後悔することになりかねません。次のことに注意して選択をしてください。

自分で調べる

自分がどのような進路目標を立てるのか、そのためにはどのような学習が必要なのか、など、科目を選択する上で必要な知識・情報は自分で調べて収集しましょう。

他の人に相談する

最後に決定するのは自分ですが、そこに至るまではいろいろな人と相談しましょう。

科目選択の際は、担任の先生をはじめとして先生たちからのアドバイスを受けながら考えていくことになります。そのほかにも、家族や教科担当の先生、部活動の顧問の先生など多くの人に相談すると、違った見方や考え方を知ることができるかもしれません。相談することはとても大切です。

自分で考えて責任をもつ

自分で調べ、他の人に相談してアドバイスを受け、自分で考えます。

最終的に決めるのは自分自身です。結果を他の人のせいにするようなことが無いよう、主体的に、積極的に考え抜いたうえで選択をし、決定をしてください。

そして、決めたことには責任を持ちましょう。

科目の選び方について

基本的には、現在の進路志望にそって科目を選択していきます。どういう仕事がやりたいか、またはどういう大学で、学部で、学科で何を学びたいかを考えて選択しないと、志望する大学の受験ができない、などということが起きてしまいます。

そのためには、次の3点の情報をしっかり集め、考えることが必要になってきます。

- (1) 目標とする進路はどのようなものか。大学であれば、どの大学か。
- (2) どういう学部・学科にいくのか。
- (3) 自身の適性はどのようなもので、どう伸ばしていくべきか。

一方で、科目選択には自分の可能性の幅を広げる、という側面もあります。特に、まだ進路についてははっきり見えていない、という人は次の観点で情報を集め、考えてください。

- (1) 勉強に限らず、自分が得意なことは何で、苦手なことは何か。
- (2) 苦手なことを克服すれば、どのような未来を切り拓くことができるか。
- (3) 逆に得意なことを伸ばせば、どのように進路を突き進むことができるか。

いずれにせよ、ここでの選択は人生を選ぶという重みをもっています。あなたの人生はあなたのものですから、責任もあなたが取らねばなりません。

しっかりと情報を集め、先を考えたうえで科目選択を行ってください。

科目選択に当たっての注意事項

- (1) 進路についての意識を早くから持つもらうために本校では2年次の科目選択は、まず1年次の夏に仮登録した後、秋に本登録を行います。
- (3) 選択科目は、ひとつの選択枠からは1科目しか選択・登録できません。
- (4) 4単位の選択科目を履修したい場合は、その科目が設置してある二つの選択枠の両方で選択・登録しなければなりません。(2単位分だけ選択・登録することはできません。)
- (5) 次の科目は、履修の順番が決まっています。3年次の履修も視野に入れて選択しましょう。

教 科 等	科 目
数 学	数学Ⅰ → 数学Ⅱ → 数学Ⅲ
	数学A → 数学B
理 科	物理基礎 → 物理
	化学基礎 → 化学
	生物基礎 → 生物
外 国 語	ASⅠ → ASⅡ
	英語コミュニケーションⅠ →
	英語コミュニケーションⅡ →
	英語コミュニケーションⅢ
	英語表現Ⅰ → 英語表現Ⅱ

※ 「〇〇〇Ⅱ」という科目は「〇〇〇Ⅰ」という科目を履修した後、「〇〇〇Ⅲ」という科目は「〇〇〇Ⅱ」という科目を履修した後でなければ履修できません

※ 「 α 」「 β 」「 γ 」については履修の順序に制約はありません。ただし、履修を強く勧める場合があるため教科のシラバスをよく読むこと

(6) 自由履修科目について

2年次（人文科学専攻のみ）及び3年次には自由履修科目が設定されています。自分の興味や関心、進路目標に沿って、自由に選択して学ぶことができます。主体的に学ぶ楽しさを実感しましょう。また、履修しないという選択も可能です。

教科の目標

授業を通じて、国語を的確に理解し、表現する能力を育成し、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高めること

教科の内容

1年次では「現代の国語」と「言語文化」の2つの科目を学びます。「現代の国語」では「読むこと」「書くこと」「話すこと」を習慣化していきましょう。また「言語文化」で学ぶ古典については、最初が肝心です。現代語との違いを考えながら、古典作品を味わいましょう。

2年次からは「論理国語」で主に評論文を、「古典探究」で古文・漢文を、「文学国語」（人文社会科学専攻）「文学国語基礎」（自然科学専攻）で主に小説を読みます。科目が細分化され、より専門性の高い授業となります。

3年次では「国語演習」「リベラルアーツ論考」という選択教科が加わります。

学習の仕方

Q. 論理的文章で、筆者が何についてどう述べているかを正確につかむには？



A. 枝葉にあたる部分と根幹にあたる部分（テーマ）とを見分けていく作業が必要です。そして、テーマが他の表現に言い換えられている箇所や、テーマを説得する根拠になっている箇所をみつけて、＝や→などの記号を付けていく練習が有効です。

Q. 相手に自分の考えが伝わるよう意見を述べるには？

A 相手に自分の考えが伝わるような道筋を考えましょう。論理の飛躍をしないことや納得してもらえる具体例を挙げること、相手の反論を想定することなどが大切になります。

Q. 文学的文章、小説の読み方は？

A. 登場人物の心理の変化を追うことが大切です。そして、自然や出来事など、その人を取り巻く環境が、その人の心理にどのような影響を与えているかをつかみましょう。

Q. 古文の読み方は？

A. 現代とは違う文法の知識をもとに、『枕草子』や『伊勢物語』など多くの古文を読みます。

そして、その中から、昔も今も変わらない点（例えば、喜んだり悲しんだりする人の心の動き）や、昔と今とで大いに違う点（例えば、自然との付き合い方など現代ではずいぶん希薄になってきていますね）を発見することによって、古文の面白さを味わってください。

Q. 漢文の読み方は？

A. 漢文の句法、構造、漢字の意味を学ぶと、人間という集団の中で生きる知恵や、逆に人間の世界からのがれて自然と一体化することを述べた含蓄のあるフレーズに出会うことができますよ！



”故（ふる）きを温（たず）ねて、
新しきを知る！”

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	論理国語 必修	2
科目の目標・内容		(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的, 批判的に考える力を伸ばすとともに, 創造的に考える力を養い, 他者との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
履修条件		なし	
使用教材		『精選 論理国語』(数研出版)	
教科からのアドバイス		多様な文章を読み、論理的に思考・表現することで、あなたの意見にグッと説得力がでることを実感するでしょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
ポートフォリオ	○	○	
家庭学習課題	○	○	○
小テスト	○		
ふり返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間行事予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	●構成や論理の展開を工夫する ●多面的に評価する 中間考査 ●目的に応じて題材を決める ●資料をもとに考えを深める 期末考査	●自分の文章をとらえ直す ●文章の目的や構成をとらえる 中間考査 ●情報の妥当性を吟味する ●書き手の意図をとらえる 期末考査	●論点と要旨を把握する 年度末考査

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	古典探究 必修	2
科目の目標・内容		<p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		「高等学校 古典探究」「プレミアムカラー国語便覧」「やさしくくわしい古典文法」「やさしくくわしい古典文法ノート」「必携 新明説漢文」「重要古文単語315」	
教科からのアドバイス		1年次で学んだ古典知識をさらに深めていきます。古来、日本で培われてきた言語の文化にたくさんふれてみましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
ポートフォリオ		○	○
言語活動		○	○
小テスト	○		
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ●説話 ●故事 中間考査 <ul style="list-style-type: none"> ●歌物語 ●思想 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●随筆 ●漢詩 中間考査 <ul style="list-style-type: none"> ●物語 ●史伝 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史物語 ●文章 年度末考査

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社 会科学	文学国語 必修	2
科目の目標・内容		<p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		『文学国語』(数研出版)	
教科からのアドバイス		<p>近代以降の日本の文学を読み深めます。</p> <p>文学は、あなたの人生を2倍、3倍にしてくれます。</p> <p>文学の世界では、あなたは昔の大学生にも、トラにも山椒魚にもなれます。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
ポートフォリオ	○	○	
家庭学習課題	○	○	○
小テスト	○		
ふり返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>●平成の小説</p> <p>●文学の扉</p> <p>中間考査</p> <p>●昭和後期の小説</p> <p>●詩歌</p> <p>期末考査</p>	<p>●昭和初期の小説</p> <p>中間考査</p> <p>●大正の小説</p> <p>●古典と現代語訳</p> <p>期末考査</p>	<p>●平成の小説</p> <p>●文学評論</p> <p>年度末考査</p>

年 次	専攻	科 目	単位数
2	自然科学	文学国語基礎 必修	1
科目の目標・内容		<p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		『文学国語』(数研出版)	
教科からのアドバイス		<p>近代以降の日本の文学を読み深めます。</p> <p>文学は、あなたの人生を2倍、3倍にしてくれます。</p> <p>文学の世界では、あなたは昔の大学生にも、トラにも山椒魚にもなれます。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
ポートフォリオ	○	○	
家庭学習課題	○	○	○
小テスト	○		
ふり返しシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>●文学の扉</p> <p>中間考査</p> <p>●昭和後期の小説</p> <p>●詩歌</p> <p>期末考査</p>	<p>●大正の小説</p> <p>中間考査</p> <p>●昭和初期の小説</p> <p>●古典と現代語訳</p> <p>期末考査</p>	<p>●文学評論</p> <p>年度末考査</p>

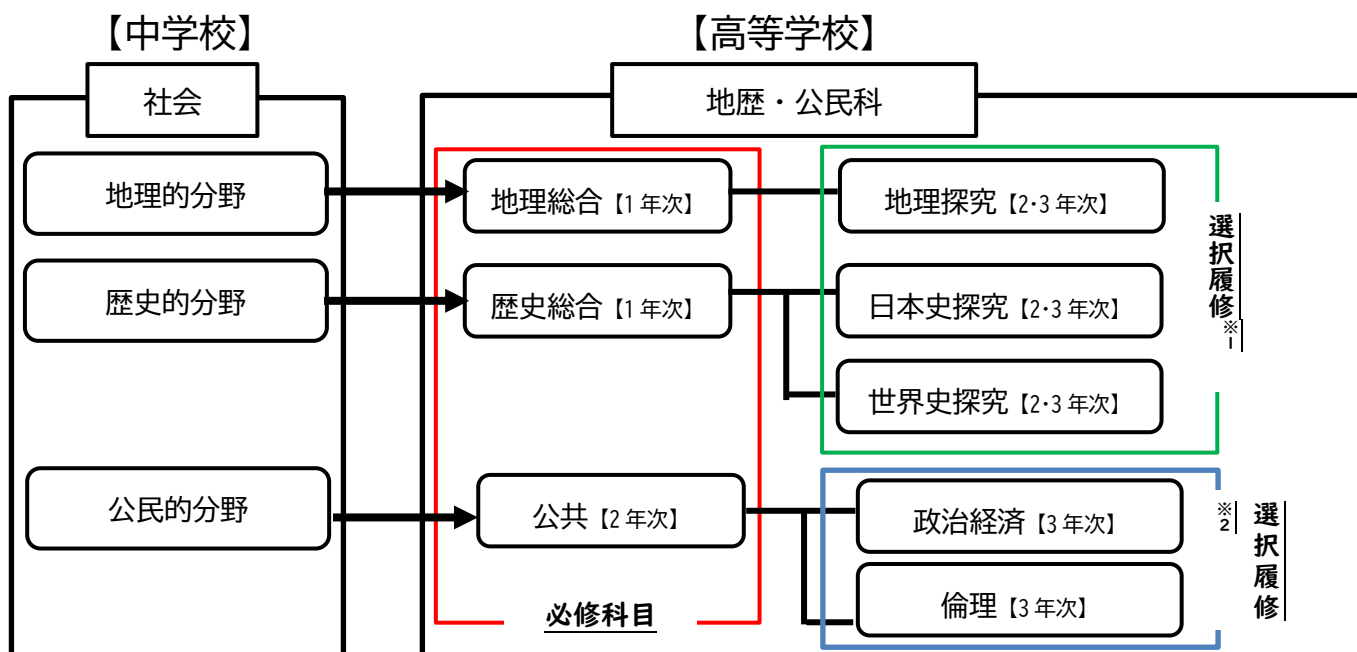
地理歴史科・公民科

教科の目標

社会科の各科目の学習を通じ、それぞれの科目の特性を生かしながら、現代社会の成り立ちを科学的に認識し、平和で民主的な社会と世界をつくりあげていく主体として必要な素養を身につけることを目標とします。

教科の内容

中学校までに学んできた社会科と高校で学ぶ社会科（地歴・公民科）との間には、根本的な考え方に違いがある訳ではありません。より深く学ぶために科目が細分化します。



※1…文系は3科目のうちから1科目選択し3年次も継続で履修。理系は地理探究のみ、政治経済・地歴演習・公共演習(2単位ずつ)との選択で3年次で履修可能(4単位)。

※2…文系は2科目のうちから1科目選択して履修。理系は政治経済のみ、地理探究(4単位)・地歴演習・公共演習(2単位)との選択で履修可能(2単位)。

※文系は3年次で探究科目と合わせて、地理演習・日本史演習・世界史演習・公民演習を選択履修(2単位)。

社会科の履修は少し複雑ですが、なによりも「どんなことを、社会科目を通して勉強したいのか？」を考えて1年次生のうちから履修のイメージを広げておきましょう！

学習の仕方

社会科の学習に限りませんが、「日々の授業を大切に」し、「予習と復習を徹底」しましょう。そのためには…

① 教科書と資料集を活用して、授業で学んだことはその日のうちにしっかり復習しましょう。

重要用語は、丸暗記ではなくその意味や背景理解すること。分からないことはそのままにしないこと！

② 社会科の学習を進めるときは、特に「5W1H」を意識的に理解し、物事のつながりを意識しましょう。

when(いつ)→ 年代・時代・世紀、where(どこで)→ 場所(都市・地域・国など)、

who(だれが)→ 人名、what(何を)→ 事件・出来事、why(なぜ)→ ものが起こった理由

how(どのように)→ 出来事のつながりや時代の流れ、事象が起こるメカニズム

③ 定期的に問題を解くことで試験に慣れたり、自分から積極的に調べ学習をおこなって自分の理解が不足しているところを補ったりして、繰り返し内容の理解を深めるようにしましょう。

④ 新聞やニュースなどを注視し、常に社会に対する関心を持ち、真実を見抜く力を身につけましょう。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社会科学	世界史探究 選択	2
科目の目標・内容		<p>○1年次の「歴史総合」で培った知識や技能を活用しながら、世界の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的に捉えてより深く学習し、理解をすすめる科目です。</p> <p>○古代から現代に至るまでの世界史の流れを順を追ってたどります。</p> <p>○地域ごとの歴史の流れと特徴をつかみながら、地域間の結びつきと交流に目を向け、世界の多様性を学び相互理解に必要な知識と教養を身につけます。</p> <p>○世界の様々な文化と価値観を尊重し、「多文化共生」の社会に向けて求められる地球市民としての資質を培います。</p>	
履修条件		なし（2年次は「選択履修」ですが、3年次は2年次の「継続履修(3 単位)」となります）	
使用教材		新詳 世界史探究(帝国書院)	
教科からのアドバイス		歴史の学習は、「過去」を踏まえ「現在」を見つめ「未来」を展望するためのものです。歴史を学習することによって、よりよい未来を創造していきましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内課題(レポートやワークシート)提出		○	○
長期休業中の課題		○	○
振り返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>■1 部 世界史へのまなざし</p> <p>1章 地球環境からみる人類の歴史</p> <p>2章 日常生活からみる世界の歴史</p> <p>■2 部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>序章 古代文明の歴史的特質</p> <p>1章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質</p> <p>1 節 中華文明の形成</p> <p>2 節 秦漢帝国と東アジア</p> <p>3 節 中央ユーラシアと遊牧国家</p> <p>4 節 遊牧帝国の興亡と移動</p> <p>5 節 ユーラシアの変動と東アジア</p> <p>2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質</p> <p>1 節 南アジアの文明と国家形成</p> <p>2 節 東南アジアの社会と国家形成</p>	<p>2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質</p> <p>1 節 南アジアの文明と国家形成</p> <p>2 節 東南アジアの社会と国家形成</p> <p>3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質</p> <p>1 節 オリент文明の興亡</p> <p>2 節 地中海周辺の国家形成</p> <p>3 節 地中海周辺と西アジアの帝国</p> <p>4 節 ヨーロッパへ広がるキリスト教</p> <p>5 節 イスラームの誕生</p>	<p>■3 部 諸地域の交流・再編</p> <p>1章 ユーラシア大交流圏の成立</p> <p>1 節 イスラーム世界の拡大</p> <p>2 節 ヨーロッパ封建社会の展開</p> <p>3 節 東アジア諸地域の成長と自立</p> <p>4 節 ユーラシア大帝国の出現</p>

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文 社会 科学	日本史探究 選択	2
科目の目標・内容		<p>○1年次の「歴史総合」で培った知識や技能を活用しながら、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えてより深く学習し、理解をすすめる科目です。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握したりし、より良い社会の実現を視野にその課題を主体的に探究しようとする態度を養っていきます。</p>	
履修条件		なし（2年次は「選択履修」ですが、3年次は2年次の「継続履修(3単位)」となります）	
使用教材		日本史探究 高校日本史(山川出版)	
教科からのアドバイス		(過去の)歴史からの教訓を学び、現代を生きる私たちがより良い社会の創造の一端を担っていきましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内課題(レポートやワークシート)提出		○	○
長期休業中の課題		○	○
振り返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>■第Ⅰ部 原始・古代</p> <p>第1章日本文化のあけぼの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本文化の始まり 2 農耕の開始 <p>◇歴史資料と原始・古代の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> ①古代社会と海外との交流 ②木簡から古代国家をさぐる <p>第2章古墳とヤマト政権</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 	<p>第3章律令国家の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 <p>■第Ⅱ部 中世</p> <p>第4章貴族政治の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長 <p>第5章院政と武士の進出</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 <p>◇歴史資料と中世の展望</p> <p>絵画から中世社会をさぐる</p>	<p>第6章武家政権の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル来襲と幕府の衰退 3 鎌倉文化 <p>第7章武家社会の成長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 室町幕府の成立 2 下剋上の社会 3 室町文化 4 戦国の動乱 <p>第8章近世の幕開け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化 <p>◇歴史資料と近世の展望</p> <p>朝鮮通信使</p> <p>※以下は3年次で継続学習になります</p> <p>第9章幕藩体制の成立と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 <p>第10章幕藩体制の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化 <p>■第Ⅳ部 近代・現代</p>

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文 社会 科学	地理探究 選択	2
科目の目標・内容		<p>○1年次の「地理総合」で培った知識や技能を活用しながら、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、多様な視点に着目して、課題の追究や解決を図る学習を進めていくことを目標とします。</p> <p>○航空交通の発達で人の動きがグローバルになり、私たちの生活は日本国内だけでなく世界の諸地域と切り離すことはできなくなりました。そんな中、現代社会では、人口問題・資源の枯渇・貧困や飢餓・地域紛争など様々な地球的課題に直面している。持続可能な開発目標(SDGs)の実現も踏まえて、世界の誰一人も取り残すことのない対策を考えていく必要があります。地理探究は世界の諸課題を地球的な視野でとらえ、持続可能な社会の在り方について探求する力を身に付けていく科目です。</p>	
履修条件		なし（2年次は「選択履修」ですが、3年次は2年次の「継続履修(3単位)」となります）	
使用教材		新詳地理探究(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院), 最新地理図表 GEO(第一学習社) ⇒地図・図表は1年次の地理総合からの継続使用です。	
教科からのアドバイス		地理を深く学んでいくことで世界が有機的につながっているということを発見していきましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内小テスト(必要に応じて実施)	○		
ワークシート(授業ごとに随時)	○	○	○
レポート課題(長期休暇課題を含む)		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1部 現代社会の系統地理的考察 第1章 自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 第2章 1節 農林水産業 2節 食料問題	3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業 第3章 交通・通信と観光, 貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口, 村落・都市 1節 人口 2節 人口問題	3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 第5章 生活文化, 民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	公共 必修	2
科目の目標・内容		<p>○2022年4月から18歳成年となり、自らの生き方をこれまでより早く選択できるようになる一方、大人としての責任も求められることとなります。「公共」という科目は、よりよい社会の実現を目指して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や国民主権を担う公民としての自覚を深めていくことを目標とします。</p> <p>○内容は、中学校社会の公民での学習をふまえて、公共的な空間における個人のあり方・法規範のあり方・日本の政治経済のしくみ・国際関係について多面的・多角的に考察し、議論を重ねながら学んでいきます。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		公共（東京法令出版）	
教科からのアドバイス		幸福・自由・正義・公正など幅広い観点から「よりよい社会の実現を目指すこと」を主体的に考察していきましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内小テスト	○		
授業内課題		○	○
長期休暇課題		○	○
振り返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>■公共の扉</p> <p>第1章</p> <p>公共的な空間をつくる私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土/文化 ・青年期/自己形成 ・宗教と哲学 <p>第2章</p> <p>公共的な空間における人間としてのあり方・生き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸福/自由/正義/公正とは <p>第3章</p> <p>公共的な空間における基本原理と日本国憲法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等 ・民主政治と国民主権 ・消極的自由と公共の福祉 ・積極的自由と義務 ・法の支配と人権保障 ・平和主義 <p>■よりよい社会の形成に参画するために</p> <p>第1章</p> <p>日本の政治機構と政治参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法の機能と限界 ・国会の運営と権限 ・内閣と行政の民主化 ・世界の政治体制 ・裁判所と人権保障 ・私たちと裁判 	<p>第1章</p> <p>日本の政治機構と政治参加(続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治のしくみ ・選挙のしくみと課題 ・政党政治/国民と政治参加 <p>第2章</p> <p>経済のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と私たちの生活 ・市場のしくみ ・市場の失敗 ・現代の企業 ・国民所得 ・景気変動と物価の動き ・財政の役割 ・財政の課題 ・金融のしくみと働き ・中央銀行と金融の自由化 <p>第3章</p> <p>変化する日本経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の経済史 ・中小企業/日本の農業問題 ・公害問題/エネルギーと循環型社会 	<p>第4章</p> <p>豊かな生活の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者主権 ・労働者の権利と労働問題 ・社会保障制度 <p>第5章</p> <p>国際政治のしくみと動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家主権と国際法 ・国際連合の役割と課題 ・第二次世界大戦後の国際社会 ・人種・民族・難民問題 ・核兵器の廃絶と国際平和 ・日本の安全保障の現状 <p>第6章</p> <p>国際経済のしくみと動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易と国際分業 ・外国為替のしくみと国際収支 ・戦後国際経済の枠組みと変化 ・地域統合 ・地球規模の諸課題

数 学 科

◎ 教科の目標

数学における基本的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。また、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

◎ 教科の内容



中学校までの数学と高校で学ぶ数学との間には、根本的な考え方に違いはありません。

(1)授業の進み具合が速く、内容も豊富で多岐

(2)論理性が要求され、説明する力や計算力も必要

といったところが相違点です。高校で学ぶ数学は、系統的に組み立てられて、理路整然とした理論体系をなしており、学問としての数学の基本となります。

1年次には、「数学Ⅰ」・「数学A」を学びます。多くは中学校で学んできた事柄を基礎にして発展させたもので、高校数学の基本になっています。3年間の学習を左右する大切なものです。

2年次には、より発展的な内容の「数学Ⅱ」「数学B」を学びます。

3年次は、理系の人はさらに、進学及び進学後に必要な基礎知識となる「数学Ⅲ」「数学C」を学びます。

また2・3年次には、受験に必要な学力を伸ばすため、「数学演習」という科目が「 α 」「 β 」「 γ 」の3種類と、「X」「Y」の2種類設定されています。積極的に選択をして力をつけてください。

◎ 2年次の自由履修科目登録の注意点

数学演習 α ：入試で数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B・Cまでを必要とし、数学演習 γ を選択しようと考えている生徒を対象とする。

数学演習 X：入試で数学Ⅰ・Aまでを必要とし、数学演習 β を選択しようと考えている生徒を対象とする。

※どちらも受験対策の演習科目です。既習内容を一から解説するような授業ではありません。

◎ 学習の仕方

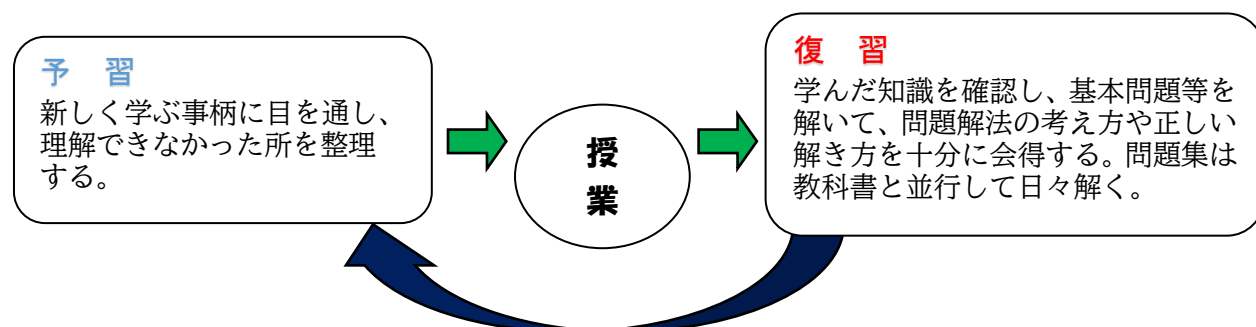
「日々の授業を大切に」することと、「予習と復習を徹底」することが何より重要です。特に数学に強くなるには、基礎になっている事柄に対する考え方や処理の力を養うのが一番大切で、教科書の内容を完全にマスターすることが必要です。具体的な学習の進め方としては、

(1)定義、定理、公式などのエッセンスを整理してまとめる。

(2)定義、定理、公式などをそのまま使えば解ける簡単な問題で基礎事項を確認する。

(3)基本となる問題を実際に自分で解く。

(4)基本問題よりやや程度の高い問題を、じっくりと考えて解く。 ということです。



年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	数学Ⅱ 必修	4
科目の目標・内容		<p>【目標】基礎的な知識と技能を身につけ、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。</p> <p>【内容】いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法の 5 分野について学習します。習熟の到達度合いに合わせて基本的な概念や原理・法則から応用も学習します。理系は、さらに発展的な内容も扱っていきます。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		高等学校 数学Ⅱ(教科書)、4プロセス数学Ⅱ+B(問題集)	
教科からのアドバイス		<p>「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。</p> <p>数学Ⅰで学んだ内容を基盤として、数学Ⅱではさらに広く数学的な教養を身に付けることができます。数学Ⅱは5分野からなっており、内容は多岐にわたっています。学習する内容も難しくなるので、数学Ⅰの内容をしっかりと復習して臨みましょう。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1章 複素数と方程式 第2章 図形と方程式 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	第3章 三角関数 第4章 指数関数・対数関数 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	第5章 微分法と積分法 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社会科学	数学 B 必修	1
科目の目標・内容		<p>【目標】基礎的な知識と技能を身につけ、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。</p> <p>【内容】数学Ⅰで学んだデータの分析をもとに確率分布・統計的な推測を学習する 3 年生を見据えて、習熟の到達度合いに合わせて基本的な概念や原理・法則から発展的な内容も学習します。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		高等学校 数学 B(教科書)、4プロセス数学Ⅱ+B(問題集)	
教科からのアドバイス		<p>「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。</p> <p>複雑な式を理解しようとする力、根気よく計算が続けられる力が必要になります。また、繰り返しの勉強が必要な科目です。予習復習を必ずするようにしましょう。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>第 2 章 統計的な推測</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>	<p>第 2 章 統計的な推測</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>	<p>第 2 章 統計的な推測</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>

年 次	専攻	科 目	単位数
2	自然科学	数学 B 必修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】基礎的な知識と技能を身につけ、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。</p> <p>【内容】等差数列・等比数列を基本に、いろいろな数列・漸化式・数学的帰納法を学習する。また、数学Ⅰで学んだデータの分析をもとに確率分布・統計的な推測を学習する３年生を見据えて、習熟の到達度合いに合わせて基本的な概念や原理・法則から発展的な内容も学習します。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		高等学校 数学 B(教科書)、4プロセス数学Ⅱ+B(問題集)	
教科からのアドバイス		<p>「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。</p> <p>複雑な式を理解しようとする力、根気よく計算が続けられる力が必要になります。また、繰り返しの勉強が必要な科目です。予習復習を必ずするようにしましょう。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1章 数列 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	第1章 数列 第2章 統計的な推測 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	第2章 統計的な推測 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社 会科学	数学演習 α 自由履修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】基礎的な知識と技能を身につけ、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。</p> <p>【内容】等差数列・等比数列を基本に、いろいろな数列・漸化式・数学的帰納法を学習する。また、3 年生を見据えて、習熟の到達度合いに合わせて数学ⅠA＋ⅡBの基本的な概念や原理・法則から発展的な内容も学習します。</p>	
履修条件		入試で数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B・Cまでを必要とし、3年次に数学演習 γ を選択しようと考えていること。	
使用教材		高等学校 数学B(教科書)、4プロセス数学Ⅱ＋B(問題集)、受験対策問題集	
教科からのアドバイス		<p>「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。</p> <p>複雑な式を理解しようとする力、根気よく計算が続けられる力が必要になります。また、繰り返しの勉強が必要な科目です。予習復習を必ずするようにしましょう。</p>	

評価機会	観 点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

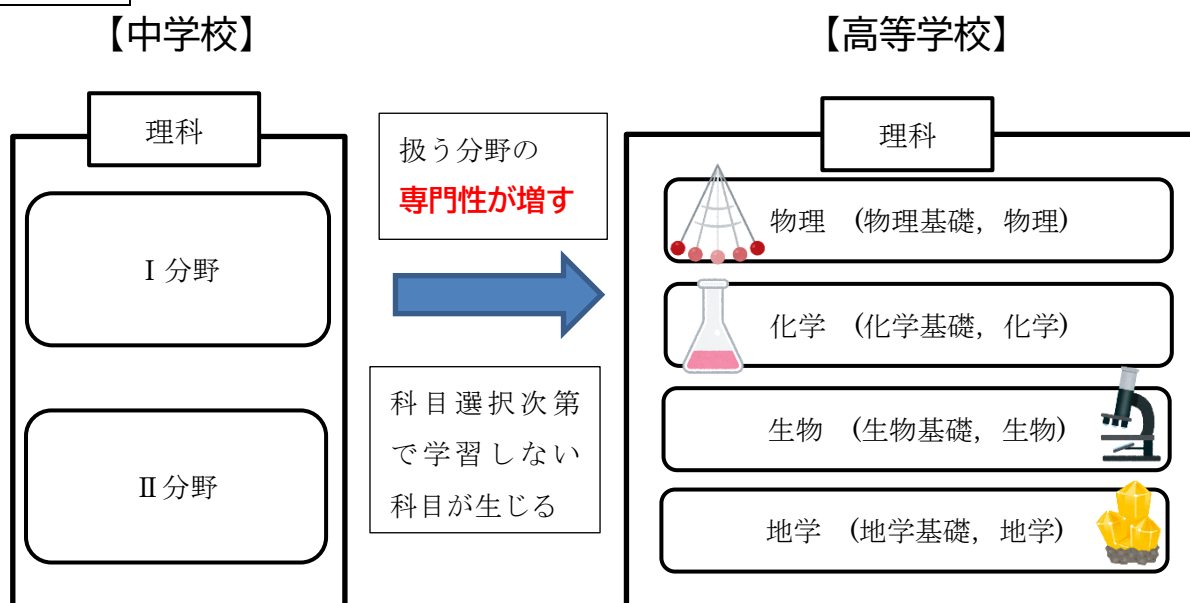
学期	一学期	二学期	三学期
単元	数学B 第1章 数列 数学ⅠA＋ⅡBの発展的な 演習問題 ※単元ごと、または内容のまとまり ごとに確認テストを実施します。	数学B 第1章 数列 数学ⅠA＋ⅡBの発展的な 演習問題 ※単元ごと、または内容のまとまり ごとに確認テストを実施します。	数学B 第1章 数列 数学ⅠA＋ⅡBの発展的な 演習問題 ※単元ごと、または内容のまとまり ごとに確認テストを実施します。

理 科

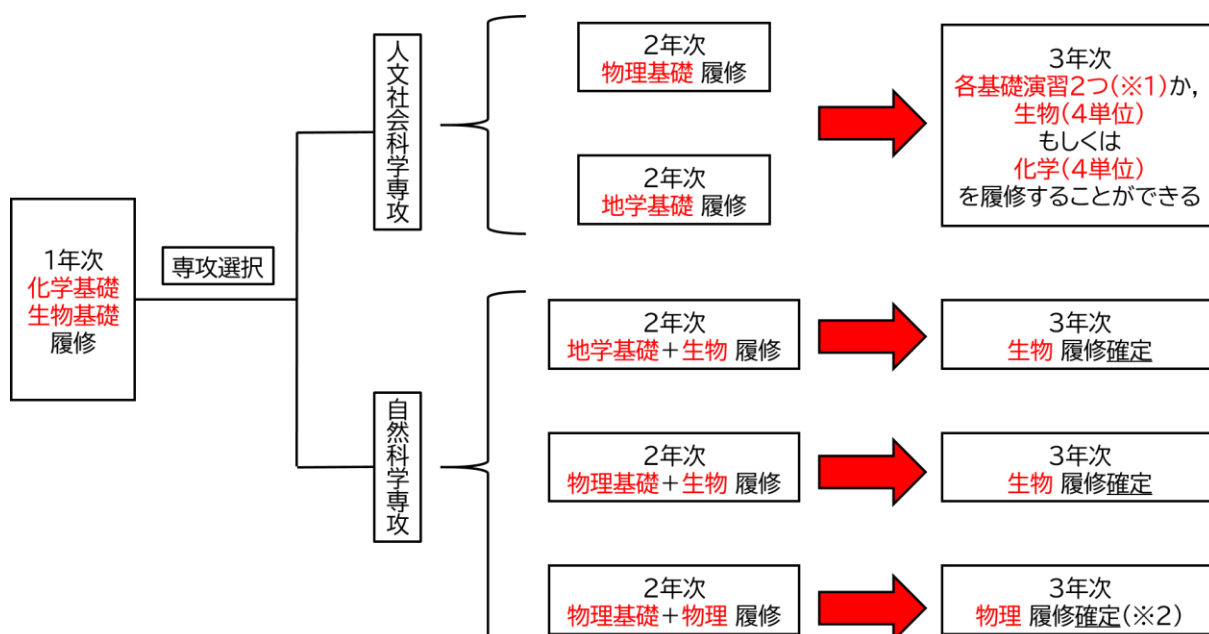
教科の目標

理科では小中学校で学習してきたように、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことを通じて、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成します。

教科の内容



本校のカリキュラム



※1:基礎科目を履修していない基礎演習を履修することはできない。

※2:3 年次で物理を履修する場合は、2年次で物理基礎+物理を必ず履修すること。

学習の仕方

高等学校の理科では、文章や図・データを読み取りそこに何が示されているのかを考えて理解する必要があります。中学校に比べて授業展開も速くなり、暗記だけでは理解が難しい内容も増えてきます。そこで、まずは授業時間を大切に取組んで下さい。授業では主体的に学ぶ姿勢をもち、自分自身を高める努力を行って下さい。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	自然科学	化 学 必修	3
科目の目標・内容		<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>① 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 観察、実験を行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	
履修条件		化学基礎を修得済みであること。	
使用教材		化学(数研出版), 新課程リード Light ノート(数研出版)	
教科からのアドバイス		環境問題を考えるならエネルギーの観点を。車はエンジンからモーターに移行していくのでしょうか。ガソリンの代わりに充電を。電池も必要。医療分野では医薬品の開発だけでなく、薬を必要な場所まで血液中を移動できる素材の研究も。化学を学ぶと、私たちの生活を支えていることが分かっておもしろいです。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内取組・振り返り	○	○	○
レポート	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液 第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 電池と電気分解	第2編 物質の変化 第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡 第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(典型元素) 第3章 金属元素(遷移元素) 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	第4編 有機化合物 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物

年 次	専攻	科 目	単位数
2	自然科学	生 物 選択	2
科目の目標・内容		<p>生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、生物学的に探究する技能・能力、態度を以下のとおりに育成する。また問題演習を通して個別試験に対応できる学力を身につける。</p> <p>① 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、実験・観察を通して事象を科学的に探究できるような観察・実験の技能を身につける。</p> <p>② 生物学的な事象を科学的に探究できる能力を身につける。</p> <p>③ 生物現象に対して主体的に関わり、科学的に探究できる能力を身につける。</p>	
履修条件		次年時に必ず「生物(5単位)」を履修すること。	
使用教材		教科書(「生物」数研出版) 問題集(「リードα」数研出版)	
教科からのアドバイス		生物学・農学系や医学・看護学系、生命科学系の学部への進学を考えている生徒は個別試験の受験科目となる可能性が高い科目です。知識定着のための予習・復習を必ず行い、思考問題にも積極的に取り組むこと。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
提出物	○	○	○
授業に向かう態度	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化 第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子	第3章 代謝 第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生	第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答 続きは次年次「生物」にて実施

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	物理基礎 選択	2
科目の目標・内容		<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>① 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		教科書(「物理基礎」啓林館) 問題集	
教科からのアドバイス		理系進学希望の場合、履修していないと志願できない学科があります。特に、理学部物理学科、工学部の土木建築系、電子システム(コンピュータ関係)、機械系の進路を考えている人は履修することを勧めます。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査・授業内テスト	○	○	
実験レポート	○	○	○
提出物	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 第2章 力と運動	第1部 物体の運動とエネルギー 第3章 仕事とエネルギー 第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 第3部 波 第1章 波の性質	第3部 波 第2章 音 第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波 第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界

年次	専攻	科目	単位数
2	自然科学	物理基礎 (物理選択者)	2
科目の目標・内容		<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>① 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	
履修条件		2年次に「物理(2単位)」を選択し、3年次に「物理(5単位)」を履修すること	
使用教材		教科書 問題集	
教科からのアドバイス		理系進学希望の場合、履修していないと志願できない学科があります。特に、理学部物理学科、工学部の土木建築系、電子システム(コンピュータ関係)、機械系の進路を考えている人は履修することを勧めます。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査・授業内テスト	○	○	
実験レポート	○	○	○
提出物	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波 第3部 波 第1章 波の性質 第2章 音 第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 第2章 力と運動	第1部 物体の運動とエネルギー 第3章 仕事とエネルギー 第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界	※二学期途中から物理の内容に移行する。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	自然科学	物 理 選択	2
科目の目標・内容		<p>物理的な事物・事象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>① 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 物理的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	
履修条件		2 年次前半に物理基礎を選択し、3 年次に「物理(5 単位)」を履修すること	
使用教材		教科書 問題集	
教科からのアドバイス		理系進学希望の場合、履修していないと志願できない学科があります。特に、理学部物理学科、工学部の土木建築系、電子システム(コンピュータ関係)、機械系の進路を考えている人は履修することを勧めます。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査・授業内テスト	○	○	
実験レポート	○	○	○
提出物	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	※二学期途中から物理の内容に移行するため、一学期の授業は物理基礎となる。	第 1 部 様々な運動 第 1 章 物体の運動 第 2 章 剛体のつり合い 第 3 章 運動量と力積	第 1 部 様々な運動 第 4 章 円運動と単振動 第 5 章 万有引力 第 2 部 熱 第 1 章 気体分子の運動

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	地学基礎 選択	2
科目の目標・内容		<p>地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>① 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		教科書、図録、問題集	
教科からのアドバイス		<p>なぜ今日は雨なのか？ なぜ京都は山に囲まれているのか？ 最近地震が多いのはどうして？ … 普段の生活の中で、身の回りにある自然のモノ・コトに意識して目を向けてみましょう。少しの興味を持って学べば、今まで気づかなかった「自然のしくみ」が見えてくるはずです。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査・授業内テスト	○	○	
学習のまとめ(ノート)	○	○	○
実験・観察レポート	○	○	○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 第2章 宇宙の誕生	第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境

保健体育科

教科の目標

- (1) 実践を通して健康の増進と体力の向上を図り、個性や社会性を伸ばし、活気に満ちた高校生活を送る。
- (2) 運動技能を磨き、強健な心身を促すとともに、生涯にわたって計画的かつ継続的に運動ができる能力と態度を育てる。
- (3) 選択制授業による得意種目の技術の向上と、意欲的に取り組む態度の育成、生涯教育への基礎を固める。
- (4) 心身の健康や体力について知識を深め、安全に留意し、自他の生命を尊重する態度を育成する。

教科の内容

- (1) 体育の実技種目は、陸上競技・球技（バレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボール、バドミントン、卓球等）・武道（剣道）・ダンス・体づくり運動です。実技種目に加え体育理論を実施します。
- (2) 1年次は共通種目を実施しますが、2年次からは選択制授業を実施します。
- (3) 保健は、「現代社会と健康」「安全な社会生活」「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の4単元を2年間（1・2年で履修）に週1時間の授業で進めます。

学習の仕方

〈 中学校との相違点 〉

- (1) 「体育」と「保健」は、それぞれ別に評価されます。
- (2) 規定時間以上の欠席時数や成績不良の場合、評定「1」（不認定）になります。
- (3) 2・3年次では選択授業（種目の選択）が展開されますが、詳細はそれぞれの学年の初めに行なうオリエンテーションで説明します。

〈 評価の観点及びその趣旨 〉

- (1) 知識及び技能
自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わい、体力を高めるための運動の仕方にも身をつける。生活における運動の意義や必要性、及び、運動の特性と合理的な仕方を理解する。また、保健分野では、個人生活及び社会生活における健康、安全について、基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
- (2) 学びに向かう力・人間性
個人や集団の中で、自ら進んで計画を立て、常に意欲的に学習に取り組む。
- (3) 思考力・判断力・表現力
自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方や生活習慣について考え、工夫する。

〈 その他 〉

- (1) 体育の時間は、指定の体操服と体育館シューズを使用してください。
- (2) 授業時の災害は、独立行政法人 日本スポーツ振興センターから給付がなされます。
- (3) 授業中の体操服や眼鏡の破損は保障しません。
- (4) 各学年、最初の授業でオリエンテーションを行い、内容についての詳しい説明や注意をします。



年 次	専 攻	科 目	単 位
2	共通	体 育 必修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】運動技能を磨き、強健な心身の発達を促すとともに、生涯にわたって計画的かつ継続的に運動ができる能力と態度を育てる。</p> <p>【内容】実技種目は、陸上競技、球技(バレーボール・バスケットボール、サッカー、ソフトボール、バドミントン・卓球等)、武道(剣道)、ダンス、体づくり運動です。実技種目に加え、体育理論を実施します。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		各種運動用具、体育活動ノート、教科書等	
教科からのアドバイス		運動やスポーツの楽しさや、喜びを体験し、健康の保持増進や体力の向上を意識し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを形成してください。	

評価機会	観 点		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
実技テスト	○		
実技実践	○	○	○
体育活動ノート		○	○
授業態度			○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px;"> <p>〈男子〉剣道、バレーボール、陸上競技、ソフトボール、バスケットボール、サッカー、持久走、体づくり運動</p> <p>〈女子〉陸上、バレーボール、ダンス、ソフトボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、サッカー、持久走、体づくり運動</p> <p>※種目選択あり</p> </div>		

年 次	専 攻	科 目	単 位
2	共通	保 健 必修	1
科目の目標・内容		【目標】 心身の健康や体力について知識を深め、安全に留意し、自他の生命を尊重する態度を育成する。 【内容】 「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の単元を学習していきます。個人及び社会生活における健康安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための学習をします。	
履修条件		なし	
使用教材		教科書, 保健ノート等	
教科からのアドバイス		健康と安全に関する基礎・基本的な内容を体系的に学習し、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培ってください。	

評価機会	観 点		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
保健ノート		○	○
課題レポート等		○	○
授業態度			○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	3-1 ライフステージと健康 から 3-6 結婚生活と健康	3-7 中高年期と健康 から 4-4 ごみの処理と上下水道の整備	4-5 食品の安全性 から 4-11 健康に関する環境づくりと社会参加
※順番が変わる可能性もあります。			

芸術科

教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養います。

音楽

内容

今日、私たちの周りには、インターネット等の発達により、様々な音楽が満ち溢れています。中でも、一般的に「楽しい音楽」「美しい音楽」といわれる作品は、いつまでも心に残り、何回聴いても新しい感動を生み出すものです。

本校の授業では、一人ひとりが「楽しい音楽」「美しい音楽」「人に伝える音楽」を見つけるための基礎的な力を身に付けることを目標としています。



学習の仕方

- (1) 基礎 様々な歌唱や器楽演奏ができるようになるために、発声・リズム等を学習します。
- (2) 歌唱 独唱での発表を通して、どんな準備が必要か自ら考え、練習し、その体験をふまえて他者とのかかわりを深めていきます。
- (3) 器楽演奏 ギターの学習では弾き語りを、ドラムの学習では8ビートを目標に練習を重ね、グループでのアンサンブルを目指します。

美術

内容

美術のはじまりは、旧石器時代の人々が、岩肌に動物や人体像を表現した事でしょうか。過去様々な場所で多くの美術作品が生まれ、今日まで守られ残されてきました。作品には作った人間の心が宿り、時代が宿ります。幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てます。そして個々が持っている素晴らしい世界や豊かな感性を、美術を通して引き出しましょう。



学習の仕方

必要なものはあなたの“身体”と“心”と表現するための材料です。美術作品を鑑賞するには“目”が必要ですし、作品を作るには“手”が必要です。本校では素材(紙や絵の具、木や石など)を手(その延長の道具)で加工しながら、あなたにとって美しいものを作る作業をしてもらいます。手で材料を扱うのですから技術を身につける必要もあります。1年間を通して、互いに批評し、芸術作品をみることの楽しさ、つくることの喜びを学びましょう。



内容

太古人類がこの地球上に存在を始めた時から、人は「もの」を作り、使用してきました。そして、人がより豊かな生活を作りあげようとする時、工芸という考え方が生まれました。生活空間は、私たちの先祖が営々と作りつづけてきた豊かで美しい「もの」で満たされ、それらを愛で、時には修繕しながら大切に培われてきました。「ものを作り、使うこと」は人が人であることの証でもあります。過度な生産と消費の時代を経て現在、私たちは限りある資源と向き合う時代を生きています。

工芸では、授業内で使用する繊維・土・木材といった素材を扱うことによって、本当に必要なものは何か。作品の制作活動を通じて、心を豊かにする暮らしとは何か。を思考し、学ぶ授業を展開します。



学習の仕方

数ある工芸のジャンルの中から、「染織」「陶芸」「木工」を中心に学習します。服・器・カトラリーといった身近な生活品をデザインし、自分の手で制作します。そして、制作後には作った作品を言語化し、自らの考えを他者に伝えるプレゼンテーションの時間を設けます。高等学校の「工芸」は、このような考えのもとに授業を行います。

材料や道具の性質や特性をしっかりと理解し、伝統的な技法を用いて楽しくじっくりと作品づくりに取り組むことで造形感覚と色彩感覚、各自の価値観を養います。また、豊かな創造力、美しさへの探求心、自他の相互理解、そして自身と社会とのつながりを思考し、行動する力を育んで行けるようにと考えます。



内容

便利で見やすい活字の利用が生活の中でも大きな割合を占めている今、『手書き文字』の必要性や表現の豊かさが見直され始めています。学校教育の中での『書』の学習課程において、小・中学校では国語科書写を通して『書き方』、主に文字を正しく整えて書くことを中心に行われてきました。それに対し、高等学校では『芸術的な書美』を基調として、文字を表現する活動が行われます。様々な角度からその表情や構成をとらえ、多彩な用具用材を用いて文字・ことばを表現します。芸術科書道では、表現力の向上を図るために、次のような学習を軸として授業を展開します。

- ・ 古典、古筆の臨書
- ・ 表現力を向上させるための作品創作
- ・ 書の歴史的背景の理解

学習の仕方

学習内容は、「漢字仮名交じりの書」・「漢字の書」・「仮名の書」の3つの分野を学習します。半紙を中心に、その他様々な種類の紙や道具を使用して作品を制作します。以下はその制作例です。

- ・ パネル、カレンダー等の紙・墨を素材とした作品制作
- ・ 篆刻(石に姓名を刻す)による印の制作
- ・ T シャツ、トートバッグ、アクセサリなど身近にあるものと書を融合させた作品の制作など

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	音楽Ⅰ 選択	2
科目の目標・内容		<p>【目標】 合唱・楽器演奏にとりくみながら，自己表現・他者との協力を学ぶ。</p> <p>【内容】 発声・リズム練習・ギター学習を経て，アンサンブル・パフォーマンスを行う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		教科書，プリント教材	
教科からのアドバイス		自己啓発を兼ねながら，音楽を通して自分にできること，他者とのかかわりを学んでいきましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
実技テスト	○	○	○
授業の様子，出欠状況			○
課題の取り組み		○	○
観点の重み付け	30%	30%	40%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	発声 歌唱 リズム練習	ギター演習 アンサンブル	パフォーマンス

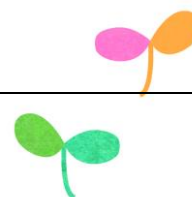
年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	美術 I 選択	2
科目の目標・内容		<p>【目標】制作を通して自分を表現しよう。美について考えよう。</p> <p>【内容】絵画(コラージュ, デッサン)、立体(粘土)、デザイン(色彩構成, 装飾デザインなど), 鑑賞</p>	
履修条件		なし	
使用教材		鉛筆, 絵の具, 粘土, 色鉛筆など ※実習材料費徴収あり	
教科からのアドバイス		柔軟にアイデアを工夫しましょう。様々な素材を加工しましょう。道具をうまく使いましょう。作品制作を楽しんでください。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
作品提出	○	○	○
授業の様子・出席状況			○
課題の取り組み		○	○
観点の重み付け	30%	30%	40%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	絵画表現	立体(粘土) デザイン(ポスターまたはパッケージデザイン)	版画(シルクスクリーン)



年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	工芸Ⅰ 選択	2
科目の目標・内容		<p>【目標】 創作活動を通じて、工芸と社会との関わりを意識する。また、繊維・土・木材といった素材に直に触れ、これらを用いた作品を制作することにより、ものづくりの面白さを知覚し体感する。</p> <p>【内容】 染織(型染め)、陶芸(手びねり)、木工・木彫の制作および制作した作品のプレゼンテーション、工芸品の鑑賞</p>	
履修条件		なし	
使用教材		教科書、用具、材料、配布プリント、chromebook ※別途教材費の徴収あり	
教科からのアドバイス		ものづくりの楽しさ、工芸の奥深さを感じ取りながら自らの五感と学習した技法を駆使し、コツコツと丁寧に作業することが大切です。また、作品と向き合うことで、探求心・想像力・集中力鍛え、育む時間にしましょう。	



評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
提出作品	○	○	○
課題の取り組み	○	○	○
授業の様子・出欠状況			○
スケッチブックの内容		○	
観点の重み付け	30%	40%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

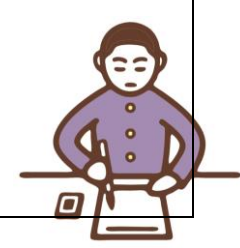
学期	一学期	二学期	三学期
単元	染織 作品制作 まとめ(プレゼンテーション・講評) 鑑賞	陶芸 作品制作 まとめ(プレゼンテーション・講評) 鑑賞	木工・木彫 作品制作 まとめ(プレゼンテーション・講評) 鑑賞

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	書道Ⅰ 選択	2
科目の目標・内容		<p>【目標】小中学校での書写から発展し、文字やことばを素材とした芸術としての書道に親しみ、生涯にわたり、芸術を愛好する態度を育てる。</p> <p>【内容】おもに「漢字の書」「仮名の書」「漢字かな交じりの書」の分野で、古人の書から表現の技術を培う。また培った技術を用いて、創作ができる基礎力を養う。</p>	
履修条件		なし	
使用教材		教科書、ワークシート、文房四方など	
教科からのアドバイス		卒業後もたくましく生きていくため、心の支えにもなりうる芸術に親しみ、自己表現をする力を養ってください。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
提出作品	○	○	
課題への取り組み		○	○ 
ワークシート		○	○
授業の様子、出欠状況			○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	「漢字の書」 ・臨書活動 ・作品作り	「仮名の書」 ・臨書活動 ・作品作り 「漢字の書」 ・臨書活動 ・作品づくり	作品作り まとめ 

外国語科（英語科）

英語は世界の共通語ともいえる言語です。英語学習を通して、様々な国々の文化や生活様式、ものの考え方などを学ぶことができ、また、日本との違いも認識できます。それによって、私たちは、日本語や日本文化を再認識することにもなります。世界の人々とのコミュニケーションを図り、お互いに理解を深めていくことが重要な今、私たち自身が英語力を高め、身近な事柄や日本のこと、そして自分自身のこともしっかりと英語で伝達できるようになることが大切です。

教科の目標

授業を通して以下のことを身につけていきましょう。

- ・正しい英語運用能力を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとることができるようになる。
- ・自分の意見を形成し、それを効果的に伝えるための技術を学び、コミュニケーションを活性化させることにより、自己と他者・世界を繋ぎ、積極的に社会と関わろうとする態度を養う。

教科の内容と学習方法

英語コミュニケーション・論理表現・プレゼンテーションスキルズ・アカデミックスキルズ・英会話・英語演習など選択科目を含め数多くの英語関連科目があります。

全ての科目を通して、4技能をバランスよく身に付けます。さらに論理・表現Ⅱ・プレゼンテーションスキルズ・アカデミックスキルズでは、「論理的思考力」「根拠を明確に、相手が理解しやすいように書く力」も重要視されるようになります。また、意見や考えを積極的にアウトプットするなど、円滑なコミュニケーションを取ろうとする態度も大変重要です。授業中の活動に積極的に取り組むことはもちろん、そこで身に付けた力を HELLO Village で実際に使っていくいきましょう。

年 次	専攻	科 目	単位数
2	共通	英語コミュニケーションⅡ 必修	4
科目の目標・内容		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なトピックに関する、まとまりのある説明文や物語の概要を論理的に理解し、必要な情報を得ることができる。 ・読んだり聞いたりしたことや身近なトピックに対して、自分の考えを論理的にスピーチやプレゼンテーションで発表することができる。 ・日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 ・日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解したりすることができる。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語、社会、歴史、自然などに関する英文を読んだり聞いたりして論理的に理解する。 ・学習内容に関する自分の意見を積極的に他と交流し、考えを深める。 ・学習内容に関する自分の意見をスピーキング・プレゼンテーションやライティングによりアウトプットする。 	
履修条件		なし	
使用教材		「HearteningⅡ」「EARTHRISE 総合英語」「ターゲット1900」	
教科からのアドバイス		授業に積極的に参加し、家では予習と復習をし、学んだ表現や用法を定着させることが大切です。授業は英語を話したり聞いたりする貴重な場なので、積極的に発言するなどしてたくさん英語を使ってください。また、教科書の内容を元に話し合いを行うなど、意見を交換する機会が多く設けられます。読んだり聞いたりしたことに対して自分で考え、それを英語でアウトプットしたり、共有したりして、さらに考えを深めていきましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	○
パフォーマンステスト	○	○	
小テスト	○		
学習姿勢・学習調整			○
観点の重み付け	50%	30%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	Lesson1～4 ・Laughter without Borders ・The Ongoing Voyages of Curry ・The World's Most Bicycle-friendly City ・Can you Feel Emotions in Text?	Lesson5～8 ・Background Music and Sharks ・The Benefits of Play ・Nursing in a War Zone ・Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	Lesson9～10 ・The Next Wave in Artificial Intelligence ・What If There Were No Moon

年 次	専 攻	科 目	単位数
2	共通	論理・表現Ⅱ 必修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覚えた言い回しや表現を話題や状況に応じて変えながら、言いたいことを伝えることができる。 ・文の間にさまざまなつながりを持たせながら、談話を展開することができる。 ・現代社会を俯瞰的に眺め、自分自身の考えを論理的にまとめようすることができる。 ・途中での言い直しや言い換えはあるが、発話を比較的長く続けることができる。 ・日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を読み取ったりすることができる。 ・なじみのある語彙や文構造をおおむね正しく使うことができる。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各 Unit の話題に応じた会話表現や文法事項に触れ、言語活動やワークブックを通じて定着させる。 ・各タスクの指示に従って短めの文章を書いた後、より多くの情報や意見を追加していくというように、徐々にステップアップしながら、論理的な主張展開の練習をする。 ・「健康・ライフスタイル」、「貧困・飢餓」、「持続可能な都市」、「プラスチックごみ問題」、「ジェンダー平等」、「地産地消」等のテーマで SDGs を意識したトピックから現代社会の問題を見つめる。 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションなどの表現活動を通じて表現力を育む。 	
履修条件		なし	
使用教材		「FACTBOOKⅡ」「FACTBOOKⅡ Workbook Mastery」	
教科からのアドバイス		「論理・表現Ⅰ」で身に付けた文法や語彙・表現を使って、より高度なコミュニケーション能力を身につけるための科目です。たくさん聞いて書いて話して、積極的に英語を使ってコミュニケーションをはかりましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	○
パフォーマンステスト	○	○	
小テスト	○		
学習姿勢・学習調整			○
観点の重み付け	50%	30%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	Unit1～4 ・How should we lead a healthy lifestyle? ・Steps we can take to Zero Hunger ・What are good and bad sides of urbanization? ・Is your city sustainable enough?	Unit5～8 ・Which should get more priority: culture or the environment? ・How to live a plastic-free life ・Helping others at home and abroad ・Challenges to equality	Unit9～10 ・Produce locally, consume locally ・Sharing as one way to create new value

年次	専攻	科目	単位数
2	人文社会科学	Presentation Skills β 選択	1
科目の目標・内容		<p>【目標】 様々な情報を理解・分析した上で自分の意見を論理的に形成し、それを場面に応じて適切な英語で話したり、書いたり、プレゼンテーションを行ったりすることによって、効果的に発信する力を育む。</p> <p>【内容】 1年次で履修した Presentation Skills α で身に付けたプレゼンテーション能力をさらに磨く。研修旅行の準備やその研修を通して学んだこと・調査したことや海外のニュース・時事問題等について、年間5回プレゼンテーションを行う。ICTを使用し、リスニングやスピーキングを訓練する。</p>	
履修条件		なし:2年次生で Presentation Skills β を履修していなくても、3年次生で Presentation Skills γ を履修することが可能。	
使用教材		「基礎から学ぶプレゼンテーション」Asahi Press(継続使用), リスニング教材	
教科からのアドバイス		1年次に身に付けたプレゼンテーションの能力を生かすために実践を重ねます。様々なトピックについて調べたり、考えたりすることによって、世界についてよりよく知り、考えることができます。また、発表練習や皆の前での実際のプレゼンテーションを行うことによって、効果的な発表の仕方を身をもって学び、自分の意見をより分かりやすく伝えることができるようになります。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
プレゼンテーション	○	○	○
インタビューテスト	○	○	○
リスニングテスト	○		
ライティングテスト	○	○	
スピーキングテスト	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ・トラベルプレゼンテーション ・日本文化プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行事前学習で調べたことを英語で伝えよう ・研修旅行で学んだことについてのプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画のアフレコ* ・越境プレゼンテーション <p>*LL 機器の使用に制限があるため、実施されないことがあります。</p>

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社 会科学	Academic Skills I 選択	1
科目の目標・内容		<p>【目標】 英語によるパラグラフの構成を学ぶとともに、様々なトピックに関して文章を書くことで文章を構成する力をつけていく。</p> <p>【内容】 夏休みの課題として 400 語のエッセイ、年次最後の課題として 1000 語のエッセイを書き、年間を通して、2500 語以上の英語を書く。 授業は全て英語で行われる。Presentation Skills β で課されるライティング課題より、さらに長いエッセイを書くことが要求される。</p>	
履修条件		なし:但し、3 年次に Academic SkillsⅡを履修するためには、2 年次に本科目の履修が必要なので注意すること。また、本科目を履修したうえで 3 年次で Presentation Skills γ を履修することは可能	
使用教材		Ready to Write 5th Edition Level 2 Student Book	
教科からのアドバイス		<p>1 年次に身に付けたプレゼンテーションの能力を生かすために実践を重ねます。様々なトピックについて調べたり、考えたりすることによって、世界についてよりよく知り、考えることができます。また、発表練習や皆の前での実際のプレゼンテーションを行うことによって、効果的な発表の仕方を身をもって学び、自分の意見をより分かりやすく伝えることができるようになります。</p> <p>基本的な説明もすべて英語で行われます。将来、自分で英語の文章を書く際、この授業で身につける力が活用できます。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
weekly Assignments	○	○	○
400 word essay	○	○	○
1000 word essay	○	○	○
speech test	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	英語論文についての講義 パラグラフ・ライティング練習 調査・研究方法を紹介、実際に行 う	英語論文書き方指導 700 語英語論文と要約作成	英語論文作成指導 1000 語論文と要約作成

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社会科学	英会話 α 自由履修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】 ALTとの様々なコミュニケーション活動を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を養い、「英語で海外旅行を楽しむ」ことができる程度の英語力の習得をめざす。</p> <p>【内容】 身近なトピックについて、ペアやグループ内でもクラスの前でも、英語で活発に発言することで会話を身につける。</p>	
履修条件		なし:但し、ALTの人数に限りがあるので、抽選になる場合があります。	
使用教材			
教科からのアドバイス		常に口頭での会話練習や活動を行います。授業への意欲的な参加によって、英語の力が付き、評価も上がります。ALTと英語で受け答えをすることはもちろん、誰とペアを組んでも、グループになっても積極的に会話練習する態度と、誰とでも意見交換をしようとする態度、大勢の前で発表する態度が必須条件です。また、個人でも復習をする努力が上達につながります。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
パフォーマンス・プレゼンテーション		○	○
授業内課題	○	○	○
授業への積極的な参加	○	○	
観点の重み付け	20%	50%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

学期	一学期	二学期	三学期
単元	①コミュニケーションストラテジー 聞き返し・確認・質問・リクエスト・お礼・同意などの確認 ②具体的な場面での英会話練習 カフェ・レストラン・ホテルや美容院の電話予約などの練習 ③2分間トーク 与えられたトピックについて、ペアでの2分間会話	①具体的な場面での会話練習 室内の物の位置を説明、公共の交通機関を利用する際に必要な受け答え ②2分間トーク ③スキット(寸劇)作成 シーンを想定してクイズを含んだスキットの作成 ④グループプレゼンテーション 京都の文化・伝統等の紹介 ⑤グループトーク	①即興的な会話練習 ②2分間トーク ③グループトーク ④オリジナル旅行プラン作成 時期・行先・予算など、英語でのグループトークをベースにプランニングし、発表活動やシミュレーション練習

年 次	専攻	科 目	単位数
2	人文社会科学	英語演習 α 自由履修	2
科目の目標・内容		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションⅡや論理・表現Ⅱで目標とされる力を、多様な素材を用いて伸長する。 ・個別の進路に応じて必要とされる英語力を、4技能のそれぞれの面において充実を図る。 ・各種資格試験に対応できる総合力を養い、大学入学試験に備えて実践的な演習を行う。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4技能型問題集を用いて、4技能の演習問題に取り組む。 ・リーディング・リスニングについては別途教材を用いて、より実践的な演習問題に取り組む。 ・その他、必要に応じて補助教材を利用し、総合力を養う。 	
履修条件		なし	
使用教材		4技能型問題集, リスニング教材, リーディング教材, その他(必要に応じて)	
教科からのアドバイス		<p>各種資格試験はもとより、大学入学共通試験等に対応できる実力を身につけていくためには、4技能の演習問題にバランスよく取り組む必要があります。そのうえで、授業ではリーディング・リスニングについてはさらに高度な力を養成します。そのため演習科目では、数多くの演習問題を扱いますが、単に授業中に行うだけでなく、復習を十分行うことが求められます。主体的、また積極的に演習と復習に取り組むようにしてください。なお、ライティングやスピーキングは課題として提出を求めることもあります。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
ライティング演習(課題提出を含む)	○	○	○
スピーキング演習(テスト含む)	○	○	○
リスニング演習・リーディング演習	○	○	○
定期考査	○	○	
夏期課題・冬期課題(4技能統合型)		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	パラグラフ・ライティング, 段落の構成を意識したリーディング, リスニング・ディクテーション, スピーキング(やりとりを中心としたコミュニケーション)	目的を意識したパラグラフ・ライティング, パラグラフ・リーディング, リスニング・ディクテーション, スピーキング(資格試験の面接を想定したnarrativeなコミュニケーションを含む)	エッセイ・ライティングを想定したライティング演習, 長文読解演習, 講演等のやや長めの素材を利用したリスニング・ディクテーション, スピーキング